

豆狸の寝言

前副会長 故・三原幸二

自然界の大原則。いろいろとあるようだが、その中に「適者生存」の原則というのがある。まさしく自然との適応能力のある者が生存を許され、不適格者は生存資格を失うという、読んで字の如しであろう。言葉はさほどにきつくはないが言わんとすることは誠に厳しいことであると思う。

さて我々の業界においてもよく役立ち度というのを見聞きする。私も時々口にするが、果たして適切にお役に立っているのだろうか疑問である。このことは我々の生存を懸けて確かめるしかない。

我々もこの自然界に生きている者であるから、自然の大原則からは逃れる術もないであろう。ただ、今の世情に適合すべく懸命の努力が必要なのは言うまでもない。その他の自然界の大原則の中に「生者必滅」「弱肉強食」「適量安泰」「新陳代謝」「共生共栄」といった法則があるようである。動物の種族においても生存のための懸命の努力をし、争いもしているようだが、決して共倒れになるようなところまでは立ち入っていないようである。

動物においてもかくのごとくであるので、人間としての我々も然るべき和の協調が必要ではないだろうか。醜い競争を避け、適者となるよう努力を続けなくてはならないのではないだろうか。物事行き過ぎると元も子もなくすということを身をもって知るべきではないだろうか。先日、ある記事を見てこのようなことを考えた次第である。

(敵差は生存) 2001年執筆

